

本日はお忙しい中、父の退董式、そして私の晋山式にお越しいただきありがとうございます。また朝早くからのご参加、お疲れが出て来る頃だと思いますが、ここで少し時間を頂き、私の経験、そして今後の方針について話したいと思います。どうぞ楽な姿勢でお聞き下さい。

改めましてこんにちは。私、東陽寺32世住職となります慶一と申します。一昨年、父が体調不良のため、寺族並びに檀家総代様で話し合いが設けられ、結果私が引き継ぐことに決まりました。私、今年で35歳・お寺を継ぐ前はヨーカドーで10年間働いていました。仏教のお話とそれてしまい、申し訳ないのですが、ヨーカドーでは『お客様に感謝の気持ちをもとう』という目標・スローガンがありました。当たり前と言えば当たりの事ですが、新人のアルバイト社員の中には、そういった意識がまだ足りない場合もあります。逆に大ベテランの社員・パートナーさんになると態度が大きくなってしまって、お客様にそのへんを感じ取ってしまうケースもあります。だからこそ、当たりの事を当たり前出来るように『お客様に感謝の気持ちをもとう』という目標・スローガンは今でもあるはずですが、こんな話をしましたが、ヨーカドーでのサービス苦情があっても私は受け付けませんので、ご了承下さい。このような会社の教育を10年間受けてきたので、自分で言うのも恥ずかしい話ですが、私も学生時代に比べれば少しは接客意識が向上したと思います。相手がいらした時に『いらっしゃいませ』・お金を頂いた時に『ありがとうございました』、まあ、ヨーカドーに限らず社会人として当たりのことですね。

ヨーカドーの話はここまでにします。なぜこんな話をしたかと言うと、お寺で働き始めて二年間の中で・先ほど述べたように<相手が来た時に『いらっしゃいませ』・最後に『ありがとうございました』>このような対応で良いのか判らないケースを経験しました。それはいったい何でしょうか？時間がないのであてませんのでご安心を、早速答えになります。それは托鉢です。みなさん、托鉢をご存知でしょうか？三角の笠を深く被った僧侶がお椀のような物を手に持って、金銭や食料をもらう行為、一種の募金活動的なもの、そんなイメージをお持ちの方も多と思います。また托鉢を見慣れていないこともあり、近寄りづらいイメージをお持ちの方も多と思います。私もお寺で働くまで、托鉢とはそんなイメージをもっていました。しかしそんな私にご縁を頂き、托鉢をする側になりました。この二年間で三回程、麻布にある永平寺別院の長谷寺で1回・足立区の仏教会の集まりで2回ほど修行させて頂きました。身支度など分からないことだらけでしたが、一番気になった事は、御布施を受け取る時の対応です。この場合に『いらっしゃいませ』と言うのは変だな、それは容易に想像できますが、『おねがいします』や『ありがとうございます』、このような声掛けはして良いのか分かりませんでした。長谷寺でのやり方は僧侶6人前後で1グループとなり、各グループ毎にお経を読みながら街中を歩き、御布施を渡して下さる方がいたら立ち止まり、施財の偈という短いお経を唱えます。御礼は言いません。ヨーカドー時代、一日何十回も『あ

りがとうございました』と言っていた自分にとってはちょっとした違和感を覚えましたし、世の中の常識で考えてみても、ちょっと失礼に当たるかなと思います。では、なぜ敢えてお礼を言わないのか、托鉢について勉強したところ、托鉢という行為が僧侶の修行であると同時に、施しをする側にとっても修行だからです。つまり自分のお金・持ち物を手放す時に、『あぁ、自分の持ち物が減っていく…』そういった執着から離れる修行・または見返りを求めない心を育てる修行、施しをする側にとって托鉢はそういった修行に当たるそうです。そのような精神で施しをしている方に対して、僧侶側が御礼を言ってしまっただけでは、修行としての意味合いが薄れてしまいます。托鉢は募金活動とは違う、僧侶・施しをする側、両者にとっての修行であるから、そこには御礼は無しという考え方です。今の話を聞いて誤解を与えない様に二つ付け足ささせて頂きます。1つ目、托鉢で御布施を受けとった僧侶の方々は御礼は言いませんが、感謝の気持ちはしっかりと持っています。感謝はしているが御礼は言えないというジレンマを感じている僧侶の方も多いと思います。また全ての事情を考慮した上で、敢えてお礼を言う僧侶の方もいます。二つ目、今日托鉢の話聞いてもらい、今後もし、托鉢で施しをする機会があったら、そういった心構えで修行して下さいと押し付ける気は全くありません。托鉢にはそういった考え方があるんだと知ってもらう事が目的です。

今日托鉢の話をしたもう一つの大きな目的がございます。それは『今の世の中の考え方・常識に対して、仏教・お寺は変化・対応すべきか』、この問題に対する私なりの答えを托鉢を通じて得ることができたからです。托鉢の施しをする側も修行であるという考えは、以前の私を含めて今の世の中で理解している人は少ない…これに対して、お寺が変わるべきか？托鉢の施しに対して僧侶がお礼を言うべきか？長谷寺さんの答えは托鉢のもつ本来の精神を大切に考え、御礼は言わない、変えないでした。反対に他の寺院さんの中には、先ほども述べたように全ての事情を考慮して、敢えてお礼を言う、変化・対応する場合があります。では私の答えはと言いますと…変えるか・変えないか・正解はどちらか分からない。しかしこれだけは間違っていると思えることがある。それは仏教のもつ精神だとか本質をよく考えずに、どんどん何かを変えてしまう事です。

今の世の中の考え方・または世の中の変化に対して、仏教・お寺が変化対応することは悪だとは思いません。むしろ 2500 年前インドで始まった仏教と今の日本仏教は異なるところが当然あります。時代・地域に合わせて変化することは必然です。そして今、コロナウイルスの影響で、また世の中の考え方・常識が急激に変化してきています。その中で技術の発展もあり葬儀ライブ配信・ロボット法話・ゆうパック送骨など新しいやり方・サービスが生まれてきました。これらの新しい技術・やり方が良いのか・悪いのか…まだ分かりません。今わかっている事は、新しい技術・やり方が便利だから、効率的だからと言って、どんどん変えちゃう、この考え方は危ないという事。仏教で大切にしている物は何なのか、そして新しいやり方・技術を取り入れた場合、その大切なものは失われないのか…これをしっかり考える

必要があると思います。そのためには大前提として仏教を知る必要があります。2500年続いている偉大な教えである仏教を私がしっかり学び、皆様にも知って頂く、その上で東陽寺が今後どう変化対応していくか決めていけたらと思います。しかし正直に申し上げますと、今の私には人に仏教を教えるだけの勉強・修行がまだまだ足りません。ですので、今後の直近の目標・私の方針は『世の中の変化に対して東陽寺も変わる必要がある。しかしまだ、私が仏教の事・お寺の事・御檀家様の事を学び足りてない。少なくともあと三年。』と考えています。

最後にもう一度繰り返しになりますが、今日一番お伝えしたかった事のまとめです。『東陽寺は世の中の変化・檀家様の要望に対応していきます。しかしお寺として大切な物・変えてはいけない物もある。私がそれを学び、皆さんにも少しずつご紹介し知って頂きたい。その上で中道的な考え・バランスをとりながら、お寺をより良い環境に変えていきたい。』です。

少し抽象的な所信表明になってしまったので、具体的な長期の計画についても少し触れたいと思います。大きいところから申し上げますと、永代供養釈迦堂の拡大・無縁墓の整理・ホームページの普及・名簿台帳などのデータ化等を考えています。またコロナの影響がもう少し落ちつきましたら、始めたい事が一つあるのですが、今はその時期では無いので、その話はまたにします。

世の中まだまだコロナの影響で大変ですが、東陽寺は多くの檀家様、そしてお寺様に支えられ、そして今日このような日を迎えることができました。本当に感謝しております。まだまだ修行中の身で、ご迷惑をおかけすると思いますが、今後とも御付き合い宜しく願います。ご清聴ありがとうございます。